

令和7年度 上半期分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和7年度上半期について、輸出額は「自動車の部分品」などが減少したことから、対前年同期比1.0%の減少となった。また、輸入額は「原粗油」「液化天然ガス」などが減少したことから、同1.1%の減少となった。

その結果、差引額は4兆1,554億円（同0.9%の減少）となった。

名古屋港における差引額は、1998年度上半期以降 55期連続 全国港別（空港を含む）第1位

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同期比による

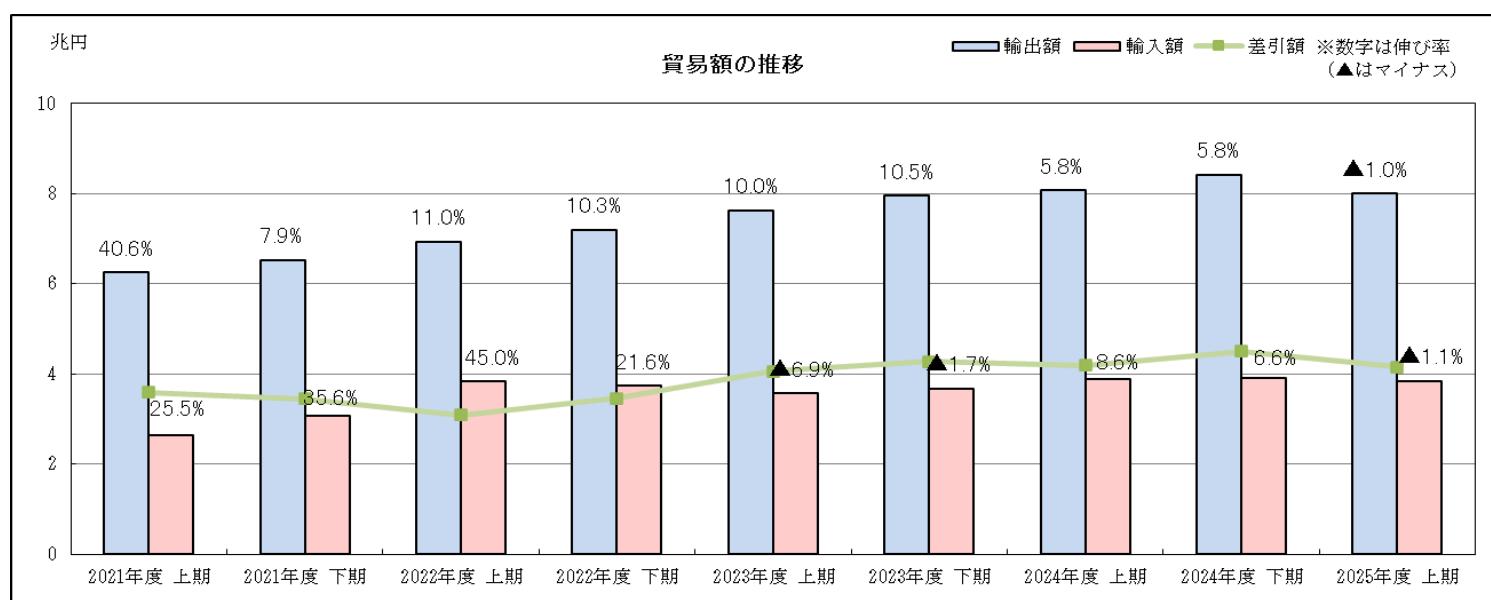
また、★印は名古屋港において全ての期を通じて過去最高を示す（1979年度上半期以降のデータを基礎として比較）

○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	7兆9,959億円	▲1.0%	3兆8,404億円	▲1.1%	4兆1,554億円	▲0.9%
	10期ぶりの減少			3期ぶりの減少		
	順位 過去3位 上半期として2位	順位 過去3位 上半期として2位	順位 過去4位 上半期として2位			
管内（名港シェア）	12兆3,814億円 (64.6%)		6兆9,878億円 (55.0%)		5兆3,936億円 (—)	
全国（名港シェア）	53兆6,533億円 (14.9%)		54兆8,771億円 (7.0%)		▲1兆2,238億円 (—)	

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出減少(1)	自動車の部分品	9,485億円	▲9.6%	▲1.2	3期連続の減少
輸入減少(1)	原粗油	2,950億円	▲19.7%	▲1.9	3期ぶりの減少
輸入減少(2)	液化天然ガス	2,366億円	▲15.3%	▲1.1	2期連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。